



NEWS

2008 No.210

9月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

燃料価格高騰で変化を始めた新車マーケット

トヨタ「iQ」で低燃費志向に拍車がかかるか ムーブ、ワゴンRの軽主力車種もフルモデルチェンジ

燃料高が国内自動車販売を変え始めています。
ユーザーが燃費志向を強めているためです。
燃料価格の高止まり傾向は今後も続くと思われる見方です。
CO₂ 排出削減の社会的要請にも合致する
コンパクト化ニーズはますます高まりそうです。

レギュラーガソリン価格が全国平均で180円/ℓを超えています(8月末時点)。昨年7月は140円程度でしたから1年間で3割もガソリン小売価格が上昇したことになります。値上がりすれば、生活防衛のために消費量を減らすしかありません。夏休みの行楽シーズンでも、車の利用は控えるという傾向は強まったようです。

たまらないのはディーゼル車が主体の業務用車両です。軽油価格は160円/ℓを超えており、36%も値上がりした状況になっています。ガソリンに比べて値上がり幅が大きいのは、海外での軽油需要が高まっているからで、輸出の強い引き合いが価格を押し上げる構造になっています。トラック輸送業界は航空機と同じように燃料サーチャージを要望し、国土交通省も指導を強めています。荷主業界との現実の交渉は厳しいようです。

今後の燃料価格はどうなるのでしょうか。原油先物指標として引き合いにだされる米国のWTI価格は、7月後半に150ドル/バレルを目前に急落しました。下落が続けば生活には大助かりなのですが、そうは行かないようです。エコノミストの予測を見ますと、最高値で200ドルという人もいますが、大方は120~160ドルの範囲で推移すると予測しています。ガソリン、軽油の小売価格の状況は、若干値下がりする可能性はありますが、基本的には高止まり、1年前の価格にまで戻ってくれそうもありません。

この燃料高の中でユーザーは、保有車量のダウンサイジングを進めているといわれ

ています。日本自動車工業会が新車購入者を対象に行っている「乗用車市場動向調査」(2007年度)において、車を代替した理由に燃費性能が悪くなったことをあげたユーザーが増えています。車検時期がきたなどの主要因はあるのですが、07年度の調査時点で6%だったものが、07年度調査では11%とほぼ倍増しています。

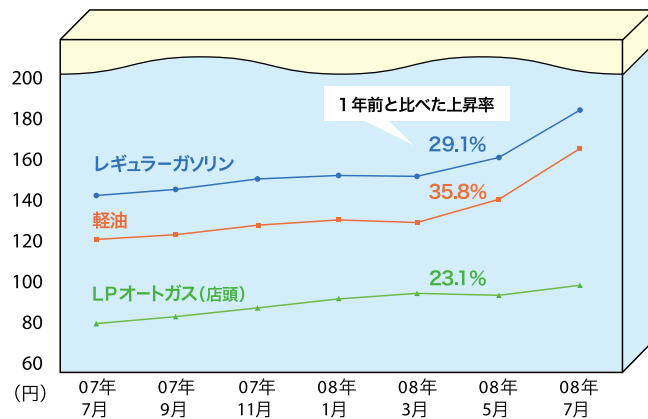
また、民間のガリバー自動車研究所のまとめでも、今後自動車購入で燃費を重視するというユーザーが増えています。全体の47.4%が「燃費」を重要視しており、「購入金額」57.5%に次ぐ高い割合です。

また、車を売却したユーザーがどのクラスに移行したかについての比較調査でも、3ℓ超クラスで軽を含む1.5ℓ以下クラスに乗り換えたユーザーは41.7%、同様に2ℓ超3ℓクラスでは44.1%、また2ℓ前後クラスでは49.4%が、軽または1.5ℓ以下のコンパクトカーを代替車に選んでいるそうです。これを踏まえ、同研究所は軽・コンパクトカーへの乗り換えが今後進むと予想しています。



トヨタの「iQ」。
CO₂ 排出抑制を念頭にデザインされた超高効率パッケージカー

自動車用燃料小売価格の1年間の推移



(日本エネルギー経済研究所石油情報センター)

8月末にダイハツ「ムーヴ」の派生モデル「ムーヴ・コンテ」が、これを追いかけるようにスズキ「ワゴンR」がフルモデルチェンジし、軽の売れ筋モデルが商品力を高めました。コンパクトカーではトヨタが新型コンパクトカー「iQ」を発売する予定です。3月のジュネーブショーで発表した4人乗り・1ℓエンジン搭載の新モデルです。いずれにしても、軽自動車やコンパクトカーの需要が高まる傾向は強まります。

業務用車両は代替燃料模索 エンジンが変わり始めたLPG車が面白い

マイカーは大きな車から小さな車へ、燃費の良いコンパクトカーや軽自動車に移行することで燃料を節約し、燃料高から生活防衛をしようとき動き始めました。では営業車、特に配送用の貨物車などはどういう方向に向かうのでしょうか。原油価格が高騰すると、代替燃料も脚光を浴びてきます。

小型トラックなどの代替燃料では、LPGガス（オートガス）、天然ガスの既存ガス燃料、CO₂排出量にカウントされないバイオディーゼル燃料（BDF）、新たな合成燃料であるジメチルエーテル（DME）があります。

DMEとBDF

DMEは、天然ガス、石炭またはバイオマスから製造できる合成燃料で、国土交通省や民間企業によるプロジェクトで車両の開発が進んでいます。三菱ガス化学や伊藤忠商事などが出資した事業会社が、新潟にプラントを作り、燃料DMEの製造を始めようとしている段階で、燃料製造が先行しても、利用する車両が本格的に登場するまでには時間がかかりそうです。

また、バイオディーゼルは非石油系燃料として注目されていますが、ヒマワリや菜の花など植物油を原料にするため、ガソリン代替

のエタノールと同様に食糧生産とのバッティングが懸念されています。日本では新品の植物油を原料にするとコスト高になることから廃食油を使ったモデル事業や実証実験が全国各地で取り組まれています。

いくつかのプロジェクトがありますが、農林水産省が07年度から5カ年計画でスタートした「バイオ燃料地域利用モデル実証事業」で茨城県土浦市の「土浦地域バイオディーゼル燃料普及協議会」など5地域のプロジェクトが、今年8月には秋田県秋田市の「秋田バイオディーゼルプロジェクト」など8地域のプロジェクトが実証地域として認められました。

日本では廃食油利用でBDF製造を計画している地域が多く、農水省モデル実証事業でのBDF最大製造設備は、東亜オイル工業所が実施者となり取り組む「BDF-関東プロジェクト」（千葉県酒々井町）で、年



新燃料のDME自動車、国土交通省のプロジェクトでも開発された

間3000kℓの製造設備能力を持つそうです。目いっぱい稼働すれば、小型トラックなら毎月4000台弱の燃料タンクをBDFで満たすことができるという計算も成り立ちます。すでに取り組んでいる事業者からは、廃食油が集めにくくなったという話も聞こえ、燃料高騰の即効薬とは言えないようです。

天然ガス



よく見かけるようになったCNG自動車。バリエーションも増えている

天然ガスは、CNG（圧縮天然ガス）自動車の燃料です。CNG車は「クリーンガス自動車」として政策的に位置づけられており、08年3月末時点で商用車から軽自動車まで含めて全国で3万4203台の自動車走っています。最も多いのは小型トラックで1万5387台と、全体の45%を占めます。

燃料価格は、普及を進めている関係から自動車燃料としての課税がないなど比較的低価格で、高額といわれる車両価格も経済産業省、国土交通省などの助成制度に加え、地方

自治体やトラック協会の補助を使うと通常の車両価格とほぼ同額で導入できるようです。

問題は天然ガス急速充電所の設置個所で、08年3月末現在では全国327カ所しかなく、しかもそのうち関東圏が133カ所と全体の40%強を占めます。アルゼンチン、パキスタンなどCNG車が普及している地域は、国内に1500カ所以上の充電所があるようで、急速充電所のインフラ整備は普及拡大の課題のひとつです。

LPGガス

LPGガスは、タクシー車両の燃料として使われてきました。08年3月末現在で29万1529台のLPGガス自動車が走っており、そのうち82%あまりがタクシーなどの営業乗用車になります。

LPGガスの世界生産量は年間2億tといわれ、供給の安定性が高い燃料と見られています。この間、ガソリン、軽油と比べ普及している自動車燃料の中で、価格上昇は緩やかなこともあり、さらにきめ細かいエンジン制御や排気改善のために電子制御噴射方式のLPGガスエンジンが国内に登場してきたことから、一部の輸送業者が注目しています。

LPGガス電子制御噴射方式のエンジンは、トヨタの「ダイナ/トヨエース」1t積クラスに設定されています。公表されたデータと燃料価格平均値で計算すると、ランニングコストはディーゼル車と遜色ありません。燃料価格は地域差があり、軽油が外需につられ

て値上がりしている地域では、燃料コストでLPGガス車が勝ることも起こりそうです。

トヨタのLPGガスエンジンはタクシー車両用に開発されたものです。この8月にタクシー専用車両の「クラウン・コンフォート」がモデルチェンジし、この新型エンジンに切り替わりました。海外では、LPGガスエンジンは電子制御燃料噴射が当たり前になっています。タクシー車両で普及が進むと、新型エンジンについての注目が高まるかもしれません。

トヨタ「ダイナ/トヨエース」1t系での燃料代比較

	エンジン形式	排気量	燃費	燃料価格	100km走行時の燃料代
ガソリン	1TR-FE	1998cc	9.2km/ℓ	182円/ℓ	1965.6円
ディーゼル	1KD-FTV	2982cc	12.0km/ℓ	163円/ℓ	1352.9円
LPGガス	1TR-FPE	1998cc	7.2km/ℓ	97.9円/ℓ	1360.8円

※燃費データはトヨタ自動車、燃料価格は石油情報センターの7月全国平均による



トヨタの「ダイナ/トヨエース」、最新の電子制御LPG液噴エンジンを搭載した

NGP協同組合各委員長に聞く 第7回 胡定晃環境委員長

経営環境が厳しいからこそ、問われる取り組み姿勢 使用済み自動車の適正処理とリサイクル部品普及にまい進 社内業務でのエネルギー利用も含めてCO₂削減を

環境委員会はこの1年間、使用済み自動車の適法・適正処理と自動車リサイクル部品の利用促進活動の推進に努めてきました。環境ビジネスは信用が大切です。毎年、「環境報告書(CSRレポート)」をまとめ、組合員各社の取り組みをチェックしています。NGPの活動をPRすることも重要だと考えており、今年もエコプロダクツへ出展します。

—NGP協同組合にとって環境は重点課題です

「環境への対応はNGP協同組合にとって最優先課題です。やりたいこともいろいろあります。その一方で、ご存知のように使用済み自動車の仕入れ競争が厳しさを増しており、経営者は事業収益に目を奪われがちになります。しかし、こういう時期だからこそNGP協同組合の原点に立ち、使用済み自動車適正処理と自動車リサイクル部品の普及促進という活動に筋を通して取り組むことが重要になると考えています。NGPブランドの強化や同業他社との差別化につながるからです」

—環境報告書(CSRレポート)を毎年作成しています。その狙いは

「NGP協同組合は自動車リサイクルの仕事に取り組んでいるわけで、自動車リサイクル法を順守し最低限やるべきことがあります。このため組合員から、使用済み自動車の引取台数とともにフロン、エアバッグ、廃タイヤ、廃バッテリー、廃油、廃LLCについて回収量を定期的に報告してもらい、処理台数に対して回収量が適正かどうかをチェックしています。フロン、エアバッグは法律事項で100%処理しなければなりません。これを1年間分を取りまとめたものが、環境報告書(CSRレポート)です」

—CO₂排出削減の面で取り組みだしたことは

「CO₂削減の基礎データを作るために、電気、ガス、水道の使用量、灯油・軽油・ガソリンの使用量についても組合員から報告してもらっています。自動車リサイクル部品はCO₂排出抑制につながっています。さらに基礎データをもとにリサイクル部品の生産・販売の現場でもCO₂排出を抑制し、リサイクル部品が地球環境にとって不可欠な

ものであることをアピールしてリサイクル部品の普及に努めます。国内ばかりか海外でも使ってもらいたいと考えています」

—今年のエコプロダクツ展は

「前回より3小間増やし9小間で出展します。展示のメインはリサイクル部品の紹介になりますが、同時にNGPブランドで取り組んでいる自動車リサイクル全般をしっかり告知して、お客様からNGPブランドが選ばれるようなアピールをしたいと思っています」



胡 定晃 (えびす・さだあき)
1972年生まれ いて座 O型 趣味・ゴルフ

海外向けNGPダイレクトシステムを構築

ワールドワイドにリサイクル部品販売

NGP協同組合は、海外向けのリサイクル部品直接検索システム「海外向けNGPダイレクトシステム」を構築、運用を始めました。



海外戦略を一端で設けられた海外向けNGPダイレクト

システムはリニューアルした「新NGPダイレクト」の英語バージョンで、海外のリサイクル部品業者がインターネットを通じて、リアルタイムにNGPの在庫を検索し、直接発注できるようにしています。インターネット上で利用可能なため、特別なプログラムは必要ありません。システムのリリースと同時に、ロシアのリサイクル部品業者との間で受発注業務が行われています。

利用するためには海外事業者がNGP協同組合員の個社に申し出て、ID、パスワードの発行を受ける必要があります。発行申請は組合員個

社が行ない、(株)NGPがID、パスワードを発行します。発行後は即日利用が可能です。発行申請を行なった組合員個社のシステムにリンクして、自動的にNGPシステムと連動し、在庫を検索し、発注ができるようにしています。

システム構築は、組合員からの要望に応えたものです。日本車の市場が広がり、海外とのリサイクル部品取引が増えだしています。こうしたインターネット上のビジネス展開が進んでいることとともない、基幹システムも画像の取り込みと表示を実現するようにしました。リニューアルした国内向けの新NGPダイレクトも使いやすいものになっています。

NGP 今月のCO₂削減量

NGP平成20年7月: **7,639,955kg** (全12団体計: **14,134,662kg**)
1月からの累計: **49,788,713kg** (全12団体計: **93,756,363kg**)

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



第16回中級研修会

専門研修を充実し、実践的なリーダーを育成

NGP協同組合の第16回中級研修会が8月25日から29日までの5日間、静岡県裾野市のあいおい保険自動車研究所東富士研修センターで開かれました。各社から生産23名、フロント10名、営業5名のリーダー候補生が受講、各分野に分かれた専門研修、現場を引っ張るためのリーダーシップ研修および技術研修に取り組みました。

今回から専門分野の研修に十分な時間を割くように改めました。また、生産の講師はしづやの小林達也社長、フロントは大橋商店の落合伸一郎社長が担当し、より実践的な立場で実務のスキルアップを図り、リーダーシップを取れるよう中身を刷新しています。

中級研修会でも実施するあいさつ訓練・試験は、参加者も印象深いようです。心をひと

つにして合格したことで「普段の仕事でもばらばらの気持ちでは、お客様に迷惑をかけてしまいます。会社の社員の心、NGPの仲間をひとつにして、会社の売上、NGPの売上アップに向けて頑張ります」(辻商会・谷口直巳さん)と身を引き締めた人もいます。

「お客様や会社の仲間へ心のもったあいさつをします。研修で学んだことを会社に帰ってから必ず実行します」(ウエイクパーツ・上野彰子さん)。「会社に帰ったら、自分が先頭に立ち会社の皆を引っ張り、業績を上げるようにします。9月から具体的目標を決めて売れる商品を毎日目標通り生産します」(川原商会・中村悦久さん)と決意表明しています。



現場力が差をつける。そのために必要なのが、リーダーシップを発揮できる人材の育成だ

第40回初期指導研修会を札幌で開催

稚内に新組合員誕生



上田北海道支部長が見守る中、初期指導研修は無事終了。新たな力が加わる

新規加入組合員を迎えるための第40回初期指導研修会が8月21日～23日、札幌市中央区のNTT北海道セミナーセンターで開かれました。北海道稚内市の株式会社チスイから野原善紀社長以下フロント・営業1名、生産2名の計4名が参加、大橋岳彦理事長や中村昌徳担当理事、三枝透組織委員長らを講師に「お客様第一」を基本とするNGPの理念や事業活動の基本を学びました。研修は無事に終了、新たな組合員として迎えることとなります。

NGP協同組合執行部が戦略会議

任期後半の事業課題などを掘り起こし、整理

NGP協同組合執行部による「戦略会議」が8月28、29日の両日、山梨県山中湖村のエクシブ山中湖で開かれました。NGP協同組合は昨年の総会で新執行部に移行、1期2年の折り返しとなる総会を10月27日に開きます。この総会を前に新たな組織戦略を練ることが「戦略会議」の目的です。大橋岳彦理事長、青木勝幸会長以下全理事が出席して、NGP協同組合および自動車リサイクル業界の目下の課題、将来展望など集中論議

し、忌憚のない意見交換を行いました。自動車リサイクル業界の経営環境は、目まぐるしく変化しています。2日間にわたる会議では、まず変化への対応を進めるために、NGPシステムを軸に組織戦略の見直しを行いました。さらに海外向けNGPダイレクトシステムの活用を含めた海外戦略、NGP協同組合として新しいビジネスモデルを構築するための検討を行い、任期後半に向けた問題の掘り起こしと課題の整理を行

いました。

海外戦略に関しては、坪千代志副理事長、中村昌徳理事を軸に内部

に研究会を立ち上げ、NGP協同組合として組織的に取り組むための検討を始めます。



本首をぶつけ、集中した論議を行うために戦略会議は本部を離れ、場所を移して行った

第3回「ベース車を当てようクイズ」正解&当選者発表!!



写真のカスタマイズ車のベースカーは？

正解は **トヨタ自動車「ソアラ」** でした。



プレゼント
当選者発表!!

北海道旭川市 花田博是さん
福島県南相馬市 佐藤草一さん
鳥取県鳥取市 藤原大輔さん

たくさんのご応募
ありがとうございました!

*当選された方には、(株)NGPよりプレゼントをお送りいたします。商品の発送にはお時間がかかる場合もございます。あらかじめご了承ください。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

(株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201